

◎ヘリウムガス回収に空気が大量に混入

圧縮機が停止、ガス回収が不能に！

去る6月19日(土)から21日(月)朝にかけてヘリウムガスの回収系統に大量の空気が送り込まれる、という事故が起きました。

原因は生産研にあるガス回収装置の圧縮機が作動中、何らかの理由でオイル・バブラーのオイルが全く無くなり、そこから空気が入り込んだため圧縮機が停止せず、物性研側に送り続けられていたことによると思われます。このため物性研の回収ガスポンベの収容能力を超え、回収用圧縮機の安全装置が作動し、圧縮機が停止して正常に送られているヘリウムガスも回収できない、という事態になりました。また、回収ガスの純度も80%(通常95~96%)に落ち、ガス精製器に大きな負担がかかりました。

さらに圧縮機が動かないため回収ガスホルダーが一杯になり、回収配管の内圧が高くなってあるいはヘリウムの実験に何らかの被害が出たことも考えられます。もし、このようなことがありましたら液化室までお知らせ下さい。

◎LN₂ 自動補給装置

999.0のオーバー表示でもあわてない

液体窒素自動補給装置を使用するとき、電磁弁が開いて充填量表示が一瞬「999.0」となることがあるため、あわてて緊急停止ボタンを押す人がいます。そうすると数字はそのまま自動集計され、記録に残ってしまいます。今月はすでに2件このようなことがありました。

液化室では集計されたものは一応チェックしていますが、もし見逃すと研究室に999.0リットル×45円=44,955円請求することになります。このようなことを起こさないためには「999.0」の表示がでてあわてず、そのままにしておけばすぐ「0」表示になります。しかし、「999.0」表示で非常停止ボタンを押してしまったら液化室までご連絡ください。

◎都庁立入検査終わる

去る6月16日(水)、高圧ガス取締法に基づき東京都の検査がありました。検査は概ね問題はなかったものの、1,2の指摘事項がありました。

- ① 高圧ガスの取扱いに関する保安教育について—近年、高圧ガスによる事故が増えている。保安教育は危害予防規程にしたがって計画を立て、実施したらその都度その内容を記録し、保安統括者等の確認を受けるように。また、教育の周知・徹底をはかること。
- ② 廊下に置いてあるポンベは鎖、ロープ等で固定するように—検査場所(液化室)に向かう途中、通りかかったA棟地下階段付近の廊下に、数本のポンベが横倒しに置いてあるのを検査官が目撃しました(クサビはあった)。検査官からは「ポンベは安全のため鎖やロープ等でしっかり固定するよう指導した方がいいと思います。」と指摘を受けました。このことは何度も液化室から研究室に対し、お願いしてきたところです。

万一、火災や地震が発生したとき、不安定な形をしているボンベは転倒しやすく、また転がりやすいため避難や消火活動、救助活動の大きな障害となることや、大惨事に結びつくこともあります。ボンベはたとえ空であってもしっかりとした管理をお願いします。

◎業者交替によるボンベの返却について

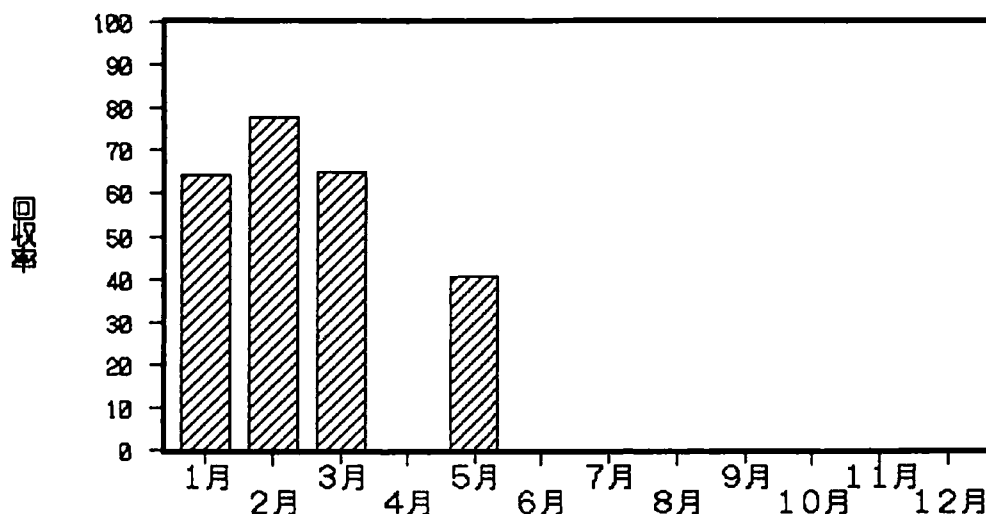
去る4月からヘリウムガスの納入業者が変更になりました。このため6月上旬までに貸出したヘリウムガスボンベ（ボンベの横に「日本ヘリウム」と塗装されているもの）は9月30日までに返却して下さい（「IWATANI」と塗装されているボンベは除く）。たとえ同日までにヘリウムガスが残っていても業者に返納する関係上、期日を厳守して下さい。

◎ヘリウムガスの回収率

1993年 年間回収率

	回収量	供給量	月始在庫	月終在庫	回収率
1月 (1/11~2/8)	3427.6	5593.1	2532.0	2794.0	64.3
2月 (2/8~3/8)	4778.7	5876.4	2794.0	2532.0	77.8
3月 (3/8~3/29)	4638.2	7318.5	2532.0	2707.0	64.9
4月 (3/29~)			2707.0		
5月 (~5/31)	4340.8	10787.0		2808.0	40.6
6月 (5/31~ /)			2808.0		
7月					
8月					
9月					
10月					
11月					
12月					

1993年 年間回収率



3月29日～5月7日まではアスベスト撤去工事のためガス回収ができなかった。